

人間愛の教育の探究をめざす

—「紀要」の創刊にあたって—

教育研究所長 永 岡 順

Preface : Aim at Education to have Respect for Human Beings

Jun Nagaoka

Director, Bunkyo University Institute of Educational Research

我が国の教育は、今、大きく変化しつつある新しい時代の潮流の中で、そのより望ましい在り方が求められている。多様化し進展する社会の中にあつて、自立的に活動し、さまざまな課題に対応して、たくましく生きてはたらく新たな人間の育成が重要なものとなってきている。

このような状況下で、教育はどのようにあればよいのか。教育のねらい、内容、方法等の在り方を探求して、その成果を人間形成に役立てていくことが重要である。平成四年度からの新学習指導要領は、そのような教育の実現に向けて教育全体が見直され改善されるべき基本方針と具体像を提示している。その根底には教育の人間化の視点があり、このことはまさに文教大学が常に大切にしてきた教育と研究の基本的精神と言ってよい。

文教大学は、建学以来「人間愛の教育」をふまえ、それを基底において教育と研究を展開してきた。それは「教育の根本が人間愛の涵養にあり、その礎の上に知の錬磨が存在すると考えているからに他ならない。」(小尾馬雄学園長)。本教育研究所は、以上の本学の教育の基本方針をふまえて、新しい時代における「人間愛の教育の探究をめざす」文教大学付属教育研究所として、平成3年4月に設立され、全学的支援のもとに発足したものである。

本研究所は、教育研究活動事業として、教育に関する理論と実際についての研究・調査、教職員の研究や研修、あるいは卒業生の研究・研修活動及び諸外国の大学、研究機関等との研究交流の場として、本学ならびに我が国の教育・研究の向上発展に資することをねらいとしている。

活動のための組織は、研究部と研修部の二部門から成るが、その研究・研修活動は、本学の「人間愛の教育」のねらいを実現していくことをめざしている。また活動事業の領域は、学校教育はいうまでもなく、生涯教育の領域までを対象として研究調査、研究発表会、公開講座等を行っていくこととしている。

この教育研究所紀要創刊号は、以上のような本研究所の発足以来今日までの、1年間の研究活動の実績をまとめたものである。本紀要では、研究調査課題として取り上げ実施した「現職教員の教職活動と教職意識に関する実証的研究——文教大学の卒業生を中心とした」の研究結果及び研修部活動として行った「夏期研修講座」——「国語科指導講習会」、「生活科指導講習会」についてまとめている。

これらの報告とともに本紀要では、学内教職員による研究論文を掲載している。ここに収録された論文は、日頃研究をすすめてこられた先生方の貴重な研究成果であり、それぞれの領域における今日の重要な教育課題の解

明のために意欲的に研究に取り組み、ここにまとめられたものである。このような研究は、我が国のこれからの教育研究の進展にとって貴重な価値ある示唆を与えてくれるものと考ええる。

本研究所は、上記のような設立の趣旨をふまえて、本年度も引き続き研究部、研修部を中心として、新たな活動事業を企画し進めつつある。この紀要は、教育研究所の活動事業の成果をはじめ、本学の教育研究活動あるいは内外の教育に関する諸情報や研究成果をも

って構成していくことを基本としている。本研究所紀要が、そのような活動の実績と本学教職員を中心とする研究成果の発表の場としていっそう活用され、ますます充実し発展していくことを期待している。

本研究所に対して、これまで多くの方々から並々ならぬご支援、ご協力を賜ったが、それら関係者の皆さま方に対して、ここに心からお礼を申し上げるとともに、今後とも変らぬご指導をお願いしたい。